



後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。ISOC理事、APNG議長、MINC理事を歴任。現在はAPAN副議長としてアジア太平洋のインターネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp

日本人の絵心

今となっては笑い話のような思い出がある。国産のワープロソフトが広く使われていたころに、アメリカのワープロソフトが輸入された。もちろん日本語の文字が使えるようになっていたのだが、評判は芳しくなかった。その理由は国産のワープロソフトに比べて罫線の機能が貧弱だったからだ。罫線とは、要するに表を作成することである。ワープロソフトで作成する書類には表が含まれている場合が多い。

日本人は表を好むという説がある。たとえば履歴書を書くときに、日本では書式のマス目を埋めていく。アメリカで履歴書を書くときには、手紙文のように文章で書くことが多い。

日本では書物を執筆するときでも、雑誌の記事を書くときでも、文字だけで紙面を埋めると「黒っばい」と言われる。普通の記事では図や表を適度に交えて書く。黒っばい紙面では本屋さんの店頭で並べたときに売れませんよ、と忠告されたことがある。

日本人が図や表を好むのは、漫画を好むのと同じ文化なのかもしれない。台湾のバスで向かい側の座席に座っている幼女が風車を持っていた。その図柄は「ちびまる子」ちゃん。帽子には「ハロキティ」が見える。日本は、ある意味でソフト大国である。

式の中を読む

アメリカ人の数学者と議論をしたことがある。彼が主張していたのは次のようなことである。

日本人には優れた数学者が多いけれども、彼らの論文は読みにくいことが多い。その理由は、たとえば次のような式が本文の中に書いてあるとする。

$$a+b=c$$

すると日本人の数学者は、読者が式の内容を読んで理解したと仮定して話を続ける。本文 式 本文と続けて読むと思っている。ところが英語の論文では、式を読まなくても理解できるように本文でかならず説明をする。この差は微細なようだけれども、日本人の論文は、本文だけを讀んだのでは理解できないのだから、私としては読むのに疲れる。

英語は文字だらけ

英語は文字の文化のように思うことがある。たとえば歩行者用の交通信号は白色でWALK、赤色でDONT WALKという文字が点灯する。日本では緑と赤のランプの中に絵が書いてある。アメリカの道路の側道に自転車レーンがBIKE LANEと白字で書いてある。日本ならば自転車の絵が書いてある標識だ。

エジンバラ大学を訪問したときに、構内の歩道の上に大きくNO BICYCLINGと書いてあったのを思い出す。そうだ。BIKEなどという崩れた英語を使うのはよくない。思わず反省させられる。

中国も文字が強い印象がある。優れた絵画の隅のほうに、漢詩のような文字が並んでいる場合がある。旧正月のころに台湾の中央研究院を訪問した。案内してくれた部長の部屋の前の廊下には、2行にわたって「修身去心中算計、治学有計算中心」と大きな字で書いてある。この部署は計算中心(計算センター)なので、その組織名を倒置して詠んだものだと言う。ちなみに算計とは悪い意味で計算高いことを言う。この文字を刻んだ文鎮をお土産にもらってきた。

漢字というのは、記号というよりは図形的な性質がある。中央研究院の研究所の食堂の壁に「春」の字が逆に貼ってある。あれは何だと質問したら、倒(DAO)と到(DAO)は同じ音だから、春が到来したという意味だと言う。

歩行者信号のアイデア

台湾で感心したのは、歩行者用の交通信号だ。赤になるまでの秒数をカウントダウンしてデジタル表示するのは他の国にもある。面白いのは、その下の枠に緑色の発光ダイオードで表示される歩行者の図形である。これが動く。最初はゆっくりと足を動かして歩いているように動いている。秒数が6秒くらいになると、足の動きが激しくなって、走っているように動く。これは見ているだけでも飽きない。

日本文化の特徴はハイブリッド、つまり雑種の良さだと思う。文字でも漢字、ひらがな、カタカナと混合して使う。その文字と式や図表を混ぜて平気で読み書きする。ヨーロッパの気持ちもわかるアジア人である。純血文化に比べると、変革の時代にはハイブリッドのほうがはるかに力を発揮するはずである。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp